

東洋医学通信

<発行元>
 阪神中国医学研究所
 尼崎市長洲本通1-16-17
 <連絡先>
 06(6488)8149

鍼灸治療と認知症

老化による物忘れ

最近鍼灸治療をしていて気が付いた事があります。たとえば、予約をしていても忘れてしまい来院されない七十歳代女性の患者さん、ご主人の往診に行っている八十歳代の奥さんの物忘れが気になることがありました。前述の患者さんには、来られない時にはたびたび受付の方に電話で、当日予約されていたむねを伝えてもらって来院していただき、後述した人の肩を診てみると凝りがあまりにもひどかったのです。本人にもお聞きしたところ凝りでも眠りにくいことがあると応えられたので、週二回の鍼灸治療をすすめましたら快諾されました。おふたりとも週二回の治療を続け

たところ、おおいに物忘れが改善されたことを認識しました。

以上のことから鍼灸治療で軽度の認知症や物忘れの症状に効果があるのではないかと推測され、今後臨床データを集めて機会があればご報告したいと思っています。

ちなみに脳に流れる血流は、総頸動脈(首の横で脈が打っている血管)が七十パーセント、椎骨動脈(首の骨の中を通る血管)が三十パーセントの割合といわれています。そのため、筋肉が血管や神経を圧迫すると脳への血流の低下によって血のめぐりがわるくなり、脳の酸素栄養不足がおこることになります。

そこで首肩部の凝りなどを治療することによって脳への血流の流れをよくすることで、物忘れや認知症の予防につながるのでは

ないかと考えております。

ここで少し認知症と老化による物忘れの違いを簡単に説明させていただきます。

認知症は、初めのうちは歳のせいによる物忘れとの区別がつきにくい病気です。大きな違いの一つとして、認知症は記憶のすべてを忘れてしまうのに対して、歳のせいによる物忘れは記憶の一部を忘れてしまう点があげられます。

具体的には、認知症の場合①体験そのものを忘れる。②忘れたことを理解できない。③食べたことを忘れる。④約束したこと自体を忘れる。⑤日付や曜日、場所などがわからなくなる。⑥ヒントを与えられても思いだせない。⑦つじつまを合わせた作り話をする。⑧さがし物は誰かに盗られたと思う。⑨買い物に行ったことを忘れ、また買い物に行く。これに対して老化による物忘れは、①体験の一部を忘れる。②忘れたことを自覚している。③何を食べたか忘れる。④約束をうっかり忘れる。⑤日付や曜日、場所などを間違える。

⑥ヒントを与えらると思いだせる。
 ⑦作り話はしない。⑧さがし物は努力して見つけようとする。⑨買い物に行ったときに、うっかり買っ忘れる。というような違いがあります。

最後に首肩凝りや緊張を和らげ脳への血の流れを良くする際に使うツボを御紹介します。

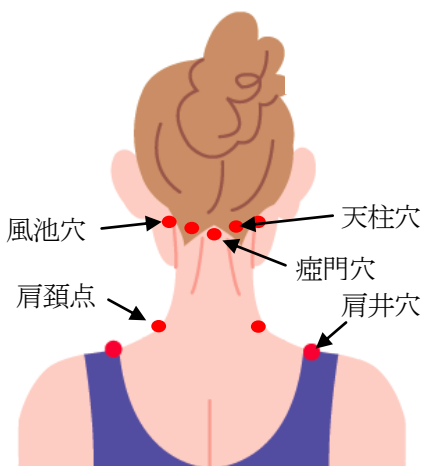
天柱穴…首と頭蓋骨の間にある。風池穴…首と頭蓋骨の間にある。

天柱穴のそとがわ。

瘰癧門穴…首と頭蓋骨の間にある真ん中のくぼみ。

肩井穴…肩の真ん中。

肩頸点…当院オリジナル。簡単に言うと、首と肩の付け根。



鍼灸師 宮崎 正康